

中国地区 DMAT 合同訓練

平成 28 年 11 月 11 日～13 日に開催された中国地区 DMAT 合同訓練に参加させて頂きました。その中での学びを共有したいと思い、今回の報告書にまとめたものを記載させていただきます。

中国地区 DMAT 合同訓練は、毎年中国 5 県で行われる DMAT の訓練です。毎回大規模な訓練を行っているのですが、この度も島根県全域を使った訓練で島根県西部を中心とした震度 7 の地震を想定した訓練でした。各 DMAT が参集するところからの訓練であり、中国自動車道の安佐サービスエリアに参集拠点を作ったり、石見空港にヘリコプターの拠点を作ったりととても大規模な訓練でした。また、DMAT と DPAT が合同で訓練するのも今回が初めての訓練でした。

私たち広島 DPAT 先遣隊は浜田合同庁舎に作られた DPAT 調整本部へ参集し、西川病院の状況を確認するミッションを指示されました。DPAT 自体は広島・島根・山口の 3 県が参加しており、西川病院でそれぞれが参集して訓練が開始となりました。今回の想定では津波はないとのことでしたが、西川病院は海拔 50 cm であり、訓練でも高潮により避難が必要との想定でした。着いて最初に行ったのは、避難が必要な病棟に患者が 30 名いるので 2 階の安全な場所へ搬送するというものでした。その作業中に周東 DMAT も到着し一緒に活動することになりました。現場での指揮系統を統一するため、DMAT の下に DPAT が入り活動することにしましたが、実際はできていないことが多く、効率的に動けてなかったことがありました。まず着いた時に活動拠点を作ること、病院職員の把握すること、クロノロ（時系列にした記録）の設置、傷病者リストの作成等です。そのあたりも途中でブリーフィングを行いながら順次改善を図りながらの活動になりました。

その後、三原赤十字も到着し、一緒に活動開始となりました。患者の搬送後はトリアージを行い、病院の希望で他病院へ転院・搬送することとなりました。途中隔離の患者が不穏症状で暴れたことへの対応や避難所で未治療の患者がおり、その対応に行くミッションなどが追加され、訓練も充実していたと感じます。訓練は隔離の患者を広島 DPAT が搬送することとなり出発したところで訓練終了となりました。

訓練の反省では、DMAT の指揮に DPAT が入り活動したことで各本部に報告する内容が DMAT にしか報告されていなかったこと、現場の忙しさからトリアージ後の患者のケアをしていなかったことなどがあがりました。参加者の思いを聞いていくと DMAT は精神的な部分は知識がなく、入院形態の理解が出来ていなかった面があった。DPAT としては身体的な評価は難しく、また、災害医療に参加した経験では DMAT より少ないため初動に戸惑いがあり、効率的な行動が出来ていなかったということが上がりました。命令系統も、DMAT・DPAT それぞれが作り、協力体制で活動すべきだったなどの意見がありました。この経験で自分自身がトリアージが出来ないこともですが、トリアージの援助も学びながらでしかで

きていない事に気づき、自分の知識の無さを思い知りました。確かに DMAT も精神科的な トリアージはできないとも言われていましたが、自分の病院が被災したことを考えると身体的な トリアージは重要なものであると思い、恥ずかしささえ覚えました。精神科ではあるものの看護師である以上はもっと意識を広げ勉強する必要を感じました。また、今回は患者も西川病院の職員が想定だ行っていたため、トリアージ後も静かに座っていることもできたが、実際の患者だと不安の表出もあったのではと感じました。そうになると、より一層の効率を意識しないと活動自体も難しいのではと感じました。そして救助する側のみでなく、される病院にもいかに効率的に助けをもらうかを考える必要があると感じます。救助しやすいようなシステム作りやスタッフの教育をしていくことで、救助がしやすくなることも実感できました。瀬野川病院も被災しないとは限らないので、そういった訓練もしていく必要があると思います。

DPAT の活動も実際の場合では DMAT と一緒に現場で動くことになるので、今回のような合同訓練に参加することはとても有意義なものであったと思います。今後も災害を意識しながら臨床の場でも働いていく必要があると感じました。

R 3 病棟 看護師 中島 誠一郎